

令和5年度進行管理・評価シート
向日市歴史的風致維持向上計画（平成27年2月23日認定）
（最終変更 令和2年5月14日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)	
1 向日市歴史的風致維持向上協議会の開催	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)	
1 景観法、屋外広告物法に基づく連携	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)	
1 史跡長岡宮跡保存活用事業	3
2 竹の径景観保全事業	4
3 桜の径景観保全事業	5
4 長岡宮跡周辺道路美装化事業	6
5 長岡京・平安京連携事業	7
6 長岡京広報・PR事業	8
7 向日市文化資料館企画展実施事業	9
8 歴史資源調査活用事業	10
9 市民歴史活動連携事業	11
10 地域歴史ボランティア養成事業	12
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)	
1 文化財調査、指定、保存管理(活用)に関すること	13
2 文化財の修理事業、文化財の周辺環境整備事業、 文化財の防災に関すること	14
3 文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への 助成・支援や連携・協力した取組みに関すること	15
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	17

□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	18
-------------------------------	----

評価軸①-1
組織体制

項目		評価対象年度	令和5年度 現在の状況
向日市歴史的風致維持向上協議会の開催			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	「向日市歴史的風致維持向上協議会」は、事務局と連携し、計画の実施に関する連絡・調整を行う。 本計画の実現に向けて、ふるさと創生推進部企画広報課、建設部都市計画課及び教育部文化財調査事務所が事務局となり、庁内関係各課で組織されている「向日市歴史まちづくり庁内推進会議」において、計画推進のための庁内の連絡・調整を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
学識経験者、地元関係団体、行政(国、府、市)により構成される「向日市歴史的風致維持向上協議会」委員から歴史的風致維持向上に資する事業内容について意見を聴取した。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
令和6年3月22日(金) 令和5年度第1回向日市歴史的風致維持向上協議会開催 【内容】(1)向日市歴史的風致維持向上計画の進行管理・評価について (2)令和6年度実施予定事業の主なものについて			
			
令和5年度第1回向日市歴史的風致維持向上協議会の様子			

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目		評価対象年度	令和5年度 現在の状況
景観法に基づく連携 屋外広告物法に基づく連携			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	景観計画の策定の中で、景観計画区域を市域全域に位置付け、本市の特徴を「歴史的景観」「自然的景観」「市街地景観」の3つに分類し、それぞれの地域特徴に応じた景観形成に努めることとしている。 このうち特に、向日丘陵の自然景観、向日神社や西国街道沿いの歴史的景観、阪急西向日駅周辺の良好な低層住宅地景観などは本市として守っていき、また、良好な景観を形成していくべき地区であることから、「景観重点地区候補地」に位置付けることを検討している。 なお、景観計画は、この歴史的風致維持向上計画の内容を反映したものとし、歴史的風致の維持向上にも期するものとする。 また、屋外広告物は、景観に対する影響が大きいことから、景観計画の中で、屋外広告物に対する考え方を整理し、向日市らしい屋外広告物の施策を調査・研究することとしている。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
歴史的風致維持向上計画との整合においては、地域特性に応じた規制誘導が必要である。 しかし、地域特性に応じた規制誘導については、地域住民の協力・理解が必要不可欠である。 そのため、地域住民との合意形成を図りながら規制誘導を定める手法として、都市計画法に基づく地区計画制度の活用が重要となる。 このことから、景観計画の策定支援に関する要望があった際には、積極的に支援する。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		歴史的風致維持向上計画と整合を図るためには、地区計画制度の成功事例を1つ1つ積み重ね、各地域に地区計画制度を浸透させ、地域住民が主体となった地域特性に応じた規制誘導が必要となる。本市では、市街地開発事業による新たなまちづくりに付随して良好な都市環境・都市景観を形成するため、阪急洛西口駅東地区などの地区計画を都市計画に定めており、建築物等の形態、又は色彩の制限を設けている。また、良好な景観の形成・保全に意欲のある地域の取組を促進するため、引き続き、まちづくり条例に基づく支援の他、地区計画制度以外の手段も、必要に応じて検討する。 現在、JR向日町駅東口開設に関連した周辺整備やJR向日町駅東側の森本東部地区及び、阪急洛西口駅西地区における新たなまちづくりなど、まちの構造が大きく変化する事業が進められていることから、それら主要事業との調整を図る必要も生じている。また、府営住宅建替についても、今後建て替え工事を予定していることから、具体的に景観を含めたまちづくりについて調整を図る必要がある。	
状況を示す写真や資料等			
			
【現在進行中の地区計画制度を活用したまちづくり】			

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和5年度 現在の状況
史跡長岡宮跡保存活用事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間	昭和56年度～令和6年度
支援事業名	文化財保存整備費(歴史活き活き史跡等総合活用整備事業、史跡等購入費国庫補助金等) 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)
計画に記載している内容	史跡長岡宮跡を適切に保存し活用を促進することを目的に、史跡の拡充・拡大と公有化を図るとともに、目に見えない史跡をより体感できるよう、ARやVRなどのソフト面、現地の遺跡表示などのハード面の整備を行う。整備に際しては、文化庁や京都府教育委員会など関係機関と十分に協議・調整を図り、地下遺構や史跡景観を損なわないよう実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

【史跡長岡宮跡】

史跡指定面積 15,697.27㎡

公有化面積 15,044.66㎡ / 公有化率 95.84%

整備面積 12,030.01㎡ / 整備化率 76.64%

令和4年度に史跡の買上事業を実施した長岡宮跡大極殿東面回廊地区を整備し、既存の大極殿公園と一体化を図るため、埋蔵文化財発掘調査と整備実施設計を実施した。

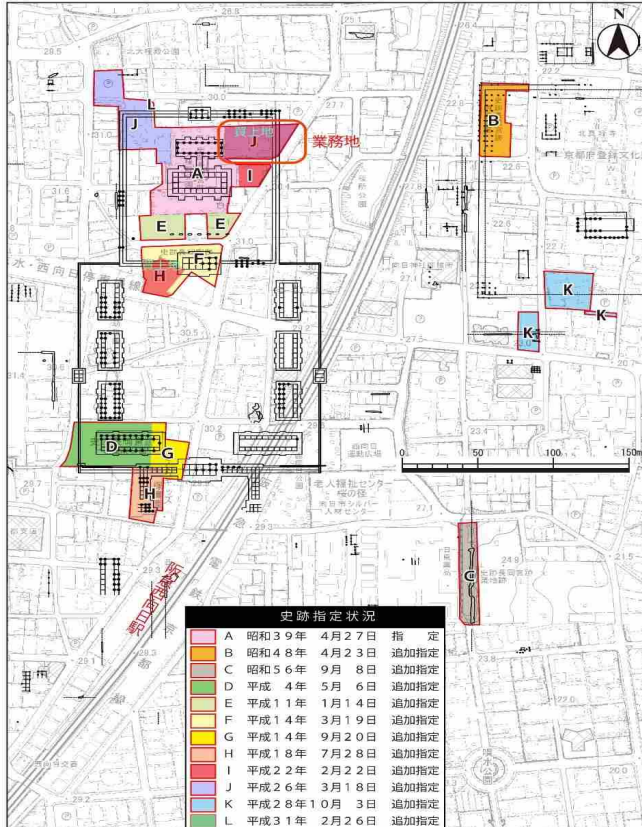
コロナ禍において実施できなかった「ふわふわ！朝堂in」を用いた啓発活動を4年ぶりに実施した。

また、平成22年度整備が完了した史跡長岡宮跡朝堂院西第四堂地区(朝堂院公園)、及び令和2年度に整備が完了した史跡長岡宮内裏内郭築地回廊及び外郭築地地区(旧上田家住宅)に案内員や会計年度任用職員を配置し、史跡や国登録有形文化財、市内の歴史文化遺産案内解説など活用の促進を図った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	引き続き、大極殿跡、朝堂院跡、内裏跡を含めた史跡長岡宮跡の拡充・拡大と保全整備を実施し、市域の歴史・文化資源や公共施設、交通機関等を連結するネットワーク化を図るなど活用の促進を図る。

状況を示す写真や資料等

長岡宮跡史跡指定範囲図



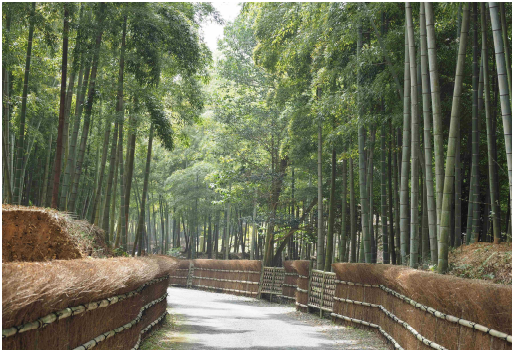
長岡宮跡大極殿東面回廊地区の発掘調査

ふわふわ！朝堂inを用いた啓発活動
(令和5年8月9日)

朝堂院公園

評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度 現在の状況
竹の径景観保全事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成12年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	歴史的資源であるタケノコづくりから出る廃材などを利用し、延長約1.8kmに設置された8種類の竹垣の保全改修を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
竹の径に設置されている竹垣の保全改修を行い、周辺環境の保全と回遊性の向上を図ることができた。 また、これまで未整備であった箇所について、新たに竹垣を整備し、伝統産業である竹工芸を通じ、さらなる景観保全を図ることができた。 整備延長 既存194.9m 新規194.9m 計389.8m			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
全国で良質な筍の産地として知られている本市北西部にある向日丘陵の竹林の景観を保全するため、環境整備(放置竹林対策・不法投棄防止)された竹の径。 この竹の径は、「全国遊歩百選」「歩きたくなるみち500選」等に認定され、また「京都府景観資産」「京都府文化的景観」に選定されるなど、市内外を問わず竹林浴の地として親しまれており、整然と連なる竹垣は、この地域産出の竹材を用い、継続的に整備している。			
 竹の径 (整備前)  (令和6年3月撮影)			

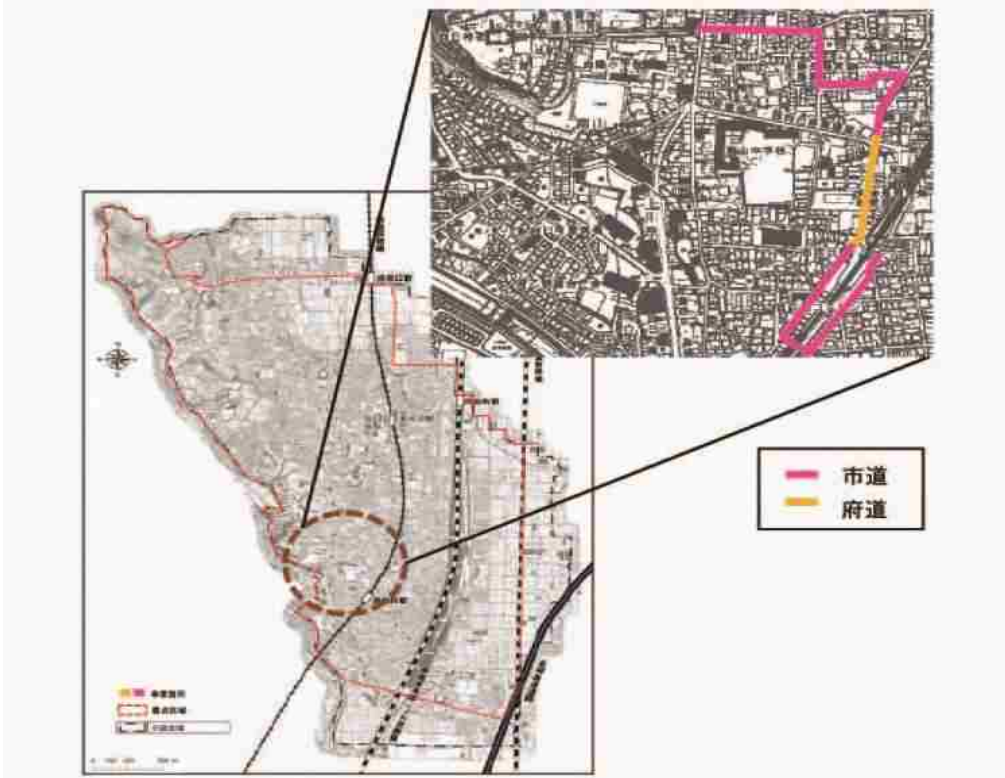
評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度 現在の状況
桜の径景観保全事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和40年代～令和6年度		
支援事業名	平成27年度～平成30年度:社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 令和元年度～令和6年度:市単独事業		
計画に記載している内容	桜の木の成長による根上がりから道路構造物が破損しているため、桜の木の環境にも配慮しながら、安全性の向上、歩車道空間を含めた景観保全のための道路改良や、それらとあわせた樹木の剪定、消毒、古木の伐採や植栽を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
桜並木の剪定や古木の更新を行い、桜の径の景観保全を図ることができた。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
阪急西向日駅南東の桜並木が広がる閑静な住宅街にあり、噴水公園を中心に町並みの景観を生かした散歩道として整備され、平成30年3月に「西向日・桜の径と住宅地景観」として京都市景観資産に登録されている。 桜の根上がりなどを継続的に補修し、景観の保全と道路の維持管理を図っている。			
 桜の径 (整備前)  (令和6年4月撮影)			

評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

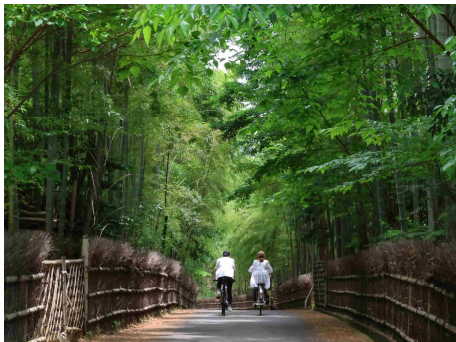
項目		評価対象年度	令和5年度 現在の状況
長岡宮跡周辺道路美装化事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成28年度～令和6年度		
支援事業名	向日市:平成28年度～令和2年度 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 京都府:令和2年度～令和6年度 社会資本整備総合交付金(防災・安全交付金(交安)事業) ※向日市歴史的風致維持向上計画の計画期間(令和6年度)満了後も事業継続予定		
計画に記載している内容	史跡長岡宮のそれぞれの遺跡や向日神社などを結ぶ道路について、京都府(府道)と市(市道)で連携、役割分担しながら、公共交通機関である阪急西向日駅から史跡長岡宮跡のそれぞれの遺跡や、向日神社を結ぶ道路の美装化(カラー舗装など)を実施する。 また、併せてカーブミラーや各種標識柱などを統一的な様式で整備する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和2年度～令和4年度で道路改良計画を策定し、令和5年度に事業説明及び用地交渉を実施した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		道路拡幅を予定しているため、用地買収の進捗が課題となっている。	
状況を示す写真や資料等			
			
【整備箇所拡大図】			

評価軸③-5

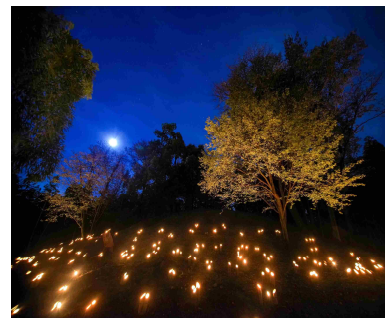
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度 現在の状況
長岡京・平安京連携事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成26年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	長岡京の次に、隣接する京都市に平安京が建都されたことから、共通するそれらの歴史や歴史的風致をキーワードとして、京都市と協働で「竹の径・かぐやのタペ」や歴史巡りウォーキングなど効果的なイベント事業を検討し、実施する。		
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で			
美しい田園風景や桜や紅葉など京都西山エリア（京都市西京区（洛西）、向日市、長岡京市、大山崎町）の景観の維持や観光地としての魅力向上に取り組む大原野保勝会と連携し、京都市、向日市、長岡京市、大山崎町の3市1町にまたがり、「京都西山」ブランドのPRを実施することができた。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			

「京都西山はいいぞ！フォトコンテスト」



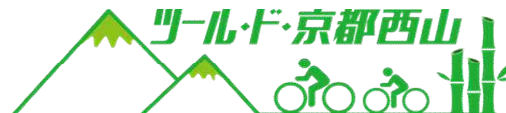
向日市賞



向日市観光協会賞



京都西山 竹の里・乙訓 「青もみじとあじさいの御朱印めぐり」

サイクルツーリズム事業
「京都西山ヒルクライム参拝」ロゴ

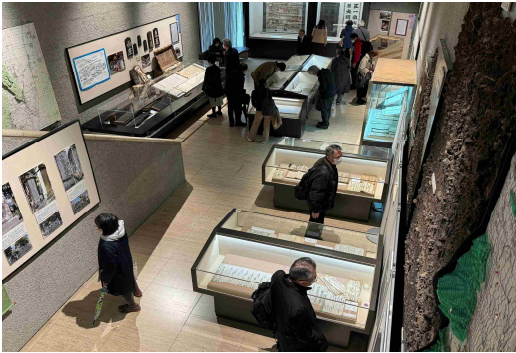
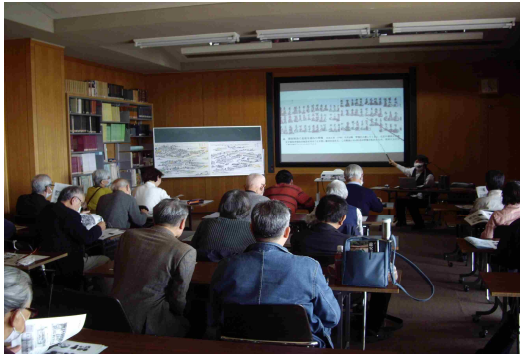
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

状況を示す写真や資料等

歴史文化交流センター活用事業
「なんとなくが面白い ぶら〜り向日市」
(令和6年3月17日)

評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度 現在の状況
向日市文化資料館企画展実施事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和59年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	歴史・文化のまちづくりの中核拠点となる文化資料館において、さまざまな時代における歴史・文化の企画展を開催する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
企画展「扁額・古文書・檀林関係資料」(令和6年3月9日から同年5月6日まで開催) これまで紹介する機会が少なかった、京都府暫定登録文化財となっている本市内の文化財のうち、修復されたばかりの向日神社の扁額や北真経寺所蔵鶏冠井檀林関係資料などを一堂に展示し、それらを通じて本市の歴史の多様性を広く紹介することができた。企画展関連事業として、会期中に記念講演会「文化財を守り伝える一京都府暫定登録文化財向日神社社額を事例に一」(令和6年3月24日)及び日曜談話会「北真経寺所蔵檀林関係資料について」を開催し(令和6年3月31日)、展示内容への理解をより深めていただき、市内の文化財への関心を高めることができた。＜期間中来館者数 798人＞(令和6年3月31日まで)			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
 企画展「扁額・古文書・檀林関係資料」 (令和6年3月9日～同年5月6日)		 檀林関係資料のうち 古文書や掛札・版木の展示	
 企画展記念講演会「文化財を守り伝える一京都府暫定登録文化財向日神社社額を事例に一」 (令和6年3月24日)		 日曜談話会「北真経寺所蔵檀林関係資料について」 (令和6年3月31日)	

評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度 現在の状況
歴史資源調査活用事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和59年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	本市に点在する歴史・文化資源を活かしたまちづくりや歴史的風致維持向上計画の推進のため、歴史的風致形成建造物などの歴史・文化資源に関連する現地調査や歴史資料の調査整理を行うとともに、調査結果を活用し、歴史講座の開催や今後のまちづくりへの活用検討などを行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
①市民寄贈の戦争関連資料を調査し、テーマ展示「くらしのなかの戦争展」を開催した。向日市における学校での近代教育が始まって150年の節目を令和4年に迎えたことにちなみ「戦争と学校」をテーマに取り上げ、日中戦争が始まるとともに学校が地域の公共の場として急速に戦時体制に組み込まれていったことを紹介した。②テーマ展示「六人部暉峰と前田玉英」を開催した。上村松園と肩を並べて活躍していた向日町出身の女性画家・六人部暉峰及び同時代の京都画壇の女性画家をテーマとして、令和3年度特別展でも展示した資料のほか、初公開の個人寄贈資料を含む新資料を加えて展示した。会期中に日曜談話会を開催し、最新の調査成果を紹介した。③市内の歴史資料の一部を活用し、市民サークルの自主学習を支援した。令和5年度は、コロナ禍でしばらく開催できなかった総会が3年ぶりに開催された。④テーマ展示「向日市・乙訓の石碑」を開催した。市内に残る学者・文人の墓碑や農業功績碑を写真や拓本で紹介し、新たな切り口で地域の歴史を紹介することができた。関連事業として、会期中に専門家による歴史講座Ⅰ「明治・大正の乙訓漢文石碑を読もう」(全2回)及び歴史講座Ⅱ「古文書を読もうー幕末京都の文人2名産贈答ー」(全2回)を開催した。戦争関連資料や本市出身画家の掘り起こし、身近だがこれまで気付かれにくかった石碑などをとりあげて調査し、その成果をテーマ展示することで、長く京都近郊農村として発展してきた本市の豊かな文化を、また違った角度から内外に発信することができた。また展示関連の講座や談話会などを実施することで、より立体的な形で市民の方々に理解を深めていただくことができた。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
 テーマ展示「くらしのなかの戦争展」 (令和5年8月5日～9月18日)  日曜談話会「明治期京都画壇の知られざる女性画家たちー六人部暉峰を中心にー」(令和5年6月18日)  歴史講座Ⅱ「古文書を読もうー幕末京都の文人2名産贈答ー」全2回の2回目(令和6年3月30日)  テーマ展示「向日市・乙訓の石碑」 (令和6年3月9日～5月6日)			

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度 現在の状況
市民歴史活動連携事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成24年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	向日市まつりなど本市で開催されるイベントと連携して行われる歴史・文化の市民活動を支援する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和5年6月25日(日)、飛鳥時代から長岡京期までの約200年間の衣裳の変遷や時代背景について、古代衣裳研究家による講演会を開催した。朝鮮半島や中国からもたらされた、和服が生まれる以前の古代衣裳について楽しく学んでいただくことができた。＜参加者数:25人＞ また、市内在住の小学生を対象として、古代衣裳について学ぶ連続ワークショップを開催した。令和5年9月30日(土)に長岡京の歴史や古代衣裳の構造を学んで復元古代衣裳の着用体験を行い、同10月28日(土)に古代の役人の腰飾りの学習と復元製作に取り組んだ。2回の学習の成果発表として、同11月11日(土)、長岡京遷都の日になんで毎年11月11日に営まれている大極殿祭の会場で、式典終了後に古代衣裳を着た参加者が「長岡京遷都ものがたり」と題した群読を披露し、衣裳を通じて古代の都・長岡京をPRすることができた。＜参加者数:14人＞			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
 古代衣裳公開研修 「飛鳥時代～長岡京期 200年の衣裳変遷」 (令和5年6月25日)  連続ワークショップ「学んで語ろう！古代のみやこ・長岡京」第1回(古代衣裳の学習と着用体験) (令和5年9月30日)  連続ワークショップ「学んで語ろう！古代のみやこ・長岡京」第2回(古代役人の腰がさりの学習と製作体験) (令和5年10月28日)  連続ワークショップ「学んで語ろう！古代のみやこ・長岡京」成果発表(「長岡京遷都ものがたり」の群読を披露) (令和5年11月11日)			

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度 現在の状況
地域歴史ボランティア養成事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成29 年度～令和6 年度		
支援事業名	平成29 年度～平成30 年度:社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 令和元年度～令和6 年度:市単独事業		
計画に記載している内容	ボランティアとして、本市に多数存在する歴史・文化資源を説明案内する活動をしている団体に対し、さらなるボランティアの養成などを行うため、必要な支援を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
観光を通じたまちづくりを担う人材育成プログラム「むこう観光スタートアップ講座」のガイド班から、市民団体「古都のむこうまちブラガイド」が発足し、現在5名で活動中。 自主事業として向日市を巡るガイドツアーを実施。その他の活動として、メンバー募集を兼ねた懇談会や、他市のガイドと連携した合同ガイドツアーを実施した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			



＜古都のむこうまちブラガイド＞

＜令和5年度の主な活動内容＞

- ・団体向けガイドツアー
- ・阪急沿線観光あるき
- ・自主企画ガイドツアー
- ・長岡京市ガイド団体との連携ガイド
- ・永守コレクションギャラリー視察
- ・ボランティアガイド交流会参加



＜ガイドコース＞
令和5年5月13日(土)
ガイドツアーの様子



＜ガイドコース＞
令和5年10月7日(土)
ガイドツアーの様子

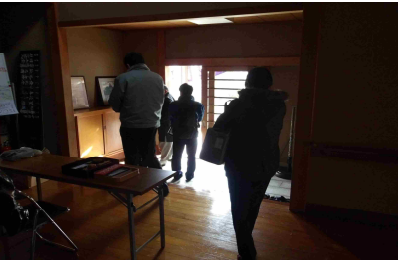
評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和5年度
項目		現在の状況	
文化財調査、指定、保存管理(活用)に関すること		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	重点区域内に存在する指定等文化財について、文化財の周辺環境も含めて保存活用の検討を行い、文化財指定の有無を問わず、文化財を市民の遺産として守り育てるという市民意識の醸成を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
(1) 平成31/令和元年度に貴重な歴史・文化遺産である史跡長岡宮跡の価値を確認し、その価値を維持し、次世代へと確実に継承していくことを目的とし、保存・管理・活用を行うための指針として、「史跡長岡宮跡保存活用計画」を策定した。 本年度は、本活用計画に基づき史跡長岡宮跡の内裏外郭築地地区を整備し「南内裏公園」として、内裏内郭築地回廊地区を整備し「旧上田家住宅」として運用を行っている。 (2) 本市の歴史・文化遺産全体の保存・管理・活用を行うための指針として「向日市文化財保存活用地域計画(仮称)」の策定について準備を進めた。 (3) 史跡乙訓古墳群の保存・管理・活用を行うための指針として「史跡乙訓古墳群保存活用計画(仮称)」について、史跡が所在する乙訓2市1町文化財担当課で構成する「乙訓文化財事務連絡協議会」で令和2年度から協議を始め、策定について準備を進めた。 (4) 史跡乙訓古墳群寺戸大塚古墳史跡指定地内において歴史文化遺産及び竹林景観の保全と活用を目的に、学校法人京都建築学園京都建築専門学校から建物の寄附をうけ「寺戸大塚古墳竹林小屋」の建築を行った。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		引き続き、文化財を適切に保護し活用の促進を通じ、地域振興・観光振興に努め、魅力あるまちづくりに寄与する。	
状況を示す写真や資料等			
 整備計画イメージパース 五塚原古墳  整備計画イメージパース 寺戸大塚古墳  寺戸大塚古墳竹林小屋 竣工式 (令和5年10月16日)  寺戸大塚古墳竹林小屋 建築完了 (令和5年10月16日)  寺戸大塚古墳竹林小屋と竹の径 (令和5年10月16日)			

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

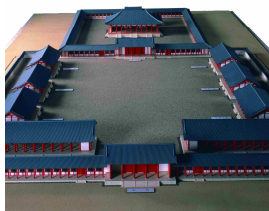
項目		評価対象年度	令和5年度 現在の状況
文化財の修理事業、文化財の周辺環境整備事業、文化財の防災に関すること			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	文化財は、火災や事故、盗難などにより消滅や毀損すれば、再び回復することが不可能になることがある。文化財の保存修理(整備)が必要な場合は、文化財の価値を損なうことなく損傷箇所などの修理を行う必要がある。文化財の所有者・管理者は、文化財の保存修理について深く認識し、施設の維持管理と修繕、周辺環境の整備、日常の保守点検の強化、関係機関との密接な連絡等を徹底し事故等の根絶を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
(1)文化財の修理事業 国や府の補助を活用しながら必要性の高いものから計画的に修理を進めており、本計画終了後も継続的に実施していく必要性があると考えている。 重要文化財 向日神社本殿ほか 自動火災報知器等点検補助 京都府指定文化財 南真経寺開山堂壁修繕工事補助 京都府指定文化財 南真経寺開山堂・本堂 自動火災報知器等点検補助 京都府指定文化財 須田家住宅 自動火災報知器等点検補助 (2)文化財の周辺環境整備 竹林ボランティアによる寺戸大塚古墳の竹林整備 (3)文化財の防災(防火・防犯等) ①文化財立入検査 令和6年1月24日(水) 向日神社、南真経寺、北真経寺 ②文化財消防訓練 令和6年1月29日(月) 北真経寺(震災による消防職員派遣のため中止) ③文化財・防火点検周知 市内一円の社寺に送付 ④その他 ●令和5年12月19日 市内指定等文化財の所有者管理者に年末年始の「文化財等の防火防犯の徹底について」を送付 ●令和6年1月9日 文化財防火ポスターを市内の国・府指定等文化財所有者らに送付 ●令和6年1月9日 市内指定等文化財の所有者管理者に「第70回文化財防火デーの開催について」案内			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		引き続き、各種の文化財調査の修理事業、環境整備、防火防犯等の保存措置を講じる。	
状況を示す写真や資料等			
   南真経寺開山堂壁修繕工事(令和5年6月21日～令和6年3月31日)    消防設備立ち入り検査状況(南真経寺) (令和6年1月24日) 消防設備立ち入り検査状況(北真経寺) (令和6年1月24日) 文化財防火デー啓発看板設置状況 (旧上田家住宅・令和6年1月23日～29日)			

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	令和5年度 現在の状況
文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への助成・支援や連携・協力した取組に関すること			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	文化資料館等の施設を有効に活用し、企画の充実を図るとともに、関係施設の連携を深め、文化財の資料収集や調査研究を推進するとともに、施設機能の充実と公開活用を行い、一体的な情報発信に取り組むこととする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
1 文化財の普及啓発の取組(展示、講座、講演会、教室等) (1)文化資料館常設展示「長岡京の歴史と文化」年間入館者数 12,666人 (2)史跡長岡宮跡朝堂院公園史跡案内 年間見学者数 6,106人 (3)史跡長岡宮跡朝堂院公園案内所ミニ展示 年間見学者数 6,106人 (4)史跡長岡宮跡旧上田家住宅史跡案内 年間見学者数 8,603人 (5)史跡長岡宮跡内裏内郭築地回廊ギャラリー展示 年間見学者数 374人 (6)市民考古学講座(4回)・関連講演会(1回開催) 講座等参加者数 199人・講演会参加者数 68人 (7)埋蔵文化財調査成果展示会「寺戸大塚古墳の最新調査成果」(R5.9.30～11.26)期間中入館者2,908人 (8)埋蔵文化財調査成果展記念講演会「あらためて問う。前方後円墳から何が語られるか」(R5.10.29)参加者数56人 埋蔵文化財調査成果展記念講演会「古墳出現への道」(R5.11.26)参加者数64人 (9)公益財団法人向日市埋蔵文化財センター設立35周年記念事業「寺戸大塚古墳の歴史的意味」「寺戸大塚古墳の魅力」(R5.10.15) 参加者数70人 (10)AR長岡宮の活用 ダウンロード数 397回(累計23,900回) 貸出タブレット利用者 16人(累計5,291人) (11)墳タビ！物集女車塚古墳の活用 184回(累計10,243回) (12)物集女車塚古墳公開 一般公開417人 小学校団体見学366人(累計783人) (13)ふわふわ！朝堂in (R5.8.9)参加人数131人 (14)文化資料館企画展・特別展 企画展「扁額・古文書・檀林関係資料展示」(R5.3.9～R6.5.6) 期間中入館者数 798人(R6.3.31まで) (15)文化資料館テーマ展示 「武者人形と天神人形」(R5.4.8～R5.5.28) 期間中入館者数 2,031人 「六人部暉峰と前田玉英」(R5.6.3～R5.7.30) 期間中入館者数 1,734人 「くらしのなかの戦争展」(R5.8.5～R5.9.18) 期間中入館者数 1,883人 「くらしの道具展」(R6.1.20～R6.2.29) 期間中入館者数 1,579人 「ひな人形展」(R6.2.17～R6.3.24) 期間中入館者数 944人 「向日市・乙訓の石碑」(R6.1.20～R6.5.6) 798人(R6.3.31まで) (16)夏休み親子歴史教室 「つくって学ぶ、さわって感じる 和紙文化と向日庵」(R5.7.27・28 講師:NPO法人向日庵理事) 参加者数 28人 (17)日曜談話会 「明治期京都画壇の知られざる女性画家たちー六人部暉峰を中心にー」(R5.6.18) 参加者数 28人 「北真経寺所蔵鶏冠井檀林関係資料について」(仮) (R6.3.31) 参加者数 28人 (18)古代衣裳公開研修「飛鳥時代～長岡京期 200年の衣裳変遷」(R5.6.25) 参加者数 25人 (19)課題解決型体験学習「戦国時代へタイムスリップ！～西岡衆をさぐる～」(R5.8月～R6.2月 計10回) 参加者数 計159人 (20)古代衣裳関連連続ワークショップ「学んで語ろう！古代のみやこ・長岡京」(R5.9.30、10.28、11.11)(全3回) 参加者数 計42人 (21)小さいピアノコンサート(R6.1.13) 参加者数66人 (22)課題解決型体験学習「戦国時代へタイムスリップ！～西岡衆をさぐる～」学習発表会(R6.2.4) 参加者数106人 (23)歴史講座 「明治・大正の乙訓漢文石碑を読もう」(R6.3.10、3.17)(全2回) 参加者数 計 79人 「古文書を読もう一幕末京都の文人2 名産贈答ー」(R6.3.23、3.30)(全2回) 参加者数 計 68人 2 民間団体への助成・支援 大極殿遺蹟保存協賛会 文化活動補助 40,000円 森本遺蹟保存会 文化活動補助 19,000円 3 民間団体との連携・協力 市民団体行事及び向日市まつりでの埋蔵文化財出土遺物展示←向日市まつり中止			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

1 文化財の普及啓発の取組



(1)文化資料館常設展示
「長岡京の歴史と文化」
(通年)



(2)史跡長岡宮跡 朝堂院公園
史跡案内(通年)



(3)史跡長岡宮跡 朝堂院公園
案内所ミニ展示(通年)



(4)史跡長岡宮跡 旧上田家住宅
史跡案内(通年)



(5)史跡長岡宮跡 内裏内郭
築地回廊ギャラリー展示
(令和5年9月14日)



(6)市民考古学講座
(令和5年10月22日)



(7)埋蔵文化財調査成果展示会
(令和5年9月30日～11月26日)



(8)埋蔵文化財調査成果
展示会記念講演会
(令和5年10月29日)



(9)公益財団法人向日市埋蔵
文化財センター設立35周年
記念事業(令和5年10月15日)



(10)AR長岡宮の活用
(令和5年5月1日)



(11)墳タビ！物集女車塚古墳



(12)物集女車塚古墳一般公開
小学校団体見学
(令和5年6月1日～7月5日)



(13)ふわふわ！朝堂in
(令和5年8月9日)



(14)文化資料館企画展
「扁額・古文書・檀林関係
資料展示」
(令和6年3月9日～5月6日)



(15)文化資料館テーマ展示
「武者人形と天神人形」
(令和5年4月8日～5月28日)



(16)夏休み親子歴史教室
「つくって学ぶ、さわって
感じる 和紙文化と向日庵」
(令和5年7月27・28日)

2 民間団体への助成・支援



(1)大極殿遺蹟保存協賛会
大極殿祭(令和5年11月11日)



(2)森本遺蹟保存会
森本遺蹟顕彰祭(令和5年11月4日)

進捗評価シート		(様式1-5)
評価軸⑤-1 効果・影響等に関する報道		
	評価対象年度	令和5年度
報道等タイトル	年月日	掲載紙等
武者人形と天神人形	R5.4.5	京都新聞
西国街道沿いの古民家を水彩画で紹介	R5.4.10	京都新聞
花祭り、稚児行列が4年ぶり再開	R5.5.4	京都新聞
伝統工芸品「京銘竹」の天日干し	R5.5.14	京都新聞
「古墳小屋」復元へ	R5.5.18	京都新聞
六人部暉峰と前田玉英	R5.5.24	京都新聞
物集女車塚古墳石室 3年ぶり一般公開	R5.5.29	京都新聞
御朱印巡りを 京都・乙訓などの24社寺・城跡がキャンペーン	R5.6.9	京都新聞
向日出身「忘れ去られた」女流画家に再注目	R5.6.15	京都新聞
古代衣装の変遷、研究家が解説	R5.6.26	京都新聞
コシヒカリ「元祖」の酒粕使った発泡酒が完成	R5.8.13	京都新聞
粘土で土器作りに挑戦	R5.8.15	京都新聞
戦争展開催 戦時中の学校を写真や映像で振り返る	R5.8.16	京都新聞
「竹の径」に新たな竹垣設置へ 「竹の魅力感じて」	R5.9.27	京都新聞
向日の前方後円墳「発掘100年」の成果とは	R5.10.2	京都新聞
向日発祥「旭米」アピール 脱穀体験や実食人気	R5.10.9	京都新聞
向日の小学生 コシヒカリのルーツ「旭米」稲刈りを体験	R5.10.15	京都新聞
寺戸大塚古墳に「竹林小屋」完成 建築専門学校が建設 寄附	R5.10.20	京都新聞
「前方後円墳から何語る」多様な知見紹介	R5.11.1	京都新聞
「五辻常夜灯まつり」開かれる 地元中学生がコンサート	R5.11.5	京都新聞
古民家に響く歌声 音楽家の解説で童謡楽しみ、地域交流	R5.11.5	京都新聞
長岡京遷都の歴史、子どもたちが当時の装束で	R5.11.13	京都新聞
「御火焚祭」雨の中、氏子や参拝者が願い事の成就祈る	R5.11.23	京都新聞
戦国武士たちの大変さ味わう 京都・向日で体験学習	R5.12.17	京都新聞
京都府向日市で小中学生が「寄合」を体験	R5.12.17	京都新聞
「魅力大発見ツアー」参加しませんか 小学生企画	R6.1.18	京都新聞
障害者が手がけた美術作品展 「パラ・アートギャラリー」	R6.2.6	京都新聞
明治～昭和30年代の「懐かしい」道具ずらり	R6.2.26	京都新聞
歴代天皇が継承か「甲冑の鉄片」展示 歴史ファン注目の出土品	R6.2.27	京都新聞
小学生が「長岡宮史跡ツアー」 住民に出土品など紹介	R6.2.28	京都新聞
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
新型コロナウイルスが5類に移行し、これまで中止されていた事業を再開することで、本市の歴史的風致の推進を図ることができた。史跡の保存活用といった大規模なハード事業や、文化資料館の企画展や文化財担当による講演会といったソフト事業のほか、市民団体による戦国時代の体験学習や、小学生による歴史ガイドツアーの企画など自主的な取組みも数多く見られた。また、本市の歴史的風致の一つである竹林を活かした「竹の径」についても新たに約200mを整備し、文化的景観の向上にも努めた。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☐ 計画の進捗に影響あり ☒ 計画の進捗に影響なし		
状況を示す写真や資料等		

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和5年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称： 令和5年度第1回向日市歴史的風致維持向上協議会	
会議等の開催日時： 令和6年3月22日	
(コメントの概要)	
○計画策定から9年が経ち、この間、市の状況も変化しており、歴史的風致でもある条里制水田や用水路などが姿を変えつつある。今後も開発が進む中、これらの歴史的風致をどのように考えるか、向き合っていかなければならない。 ○向日市の歴史的風致のためには、住民主導の協議会が今後増えると良いので、保存活用に向けて住民が動きやすい環境をつくっていくことが重要である。 ○これまでの文化財は、復元を基本として整備が進められてきたが、重層性や価値の多様性が認められてきており、考え方が変わりつつある。寺戸大塚古墳でも復元だけにとられず、これまでの歴史の重層性や、今に引き継がれている歴史や文化も踏まえた形で保存活用を考えていくことが重要である。 ○市のほぼ全域が歴まち計画の重点区域に設定されていることは、全国的にも非常に珍しく、評価においての強みになると考える。まさに市全体が「丸ごと歴まち」と言える。 ○歴史的風致の維持向上のためには、農業の維持が必要だが、従来の上までは農家は引退していくし、農地は減っていく趨勢を止め難い。何らかの農業の新しい担い手の育成などを取り組む必要がある。また、西国街道の民家や町並みの保全にも、所有者の事情に依存するのは当事者に過大な負担があり、何らかのサポートの新しい取り組みが必要である。景観計画や都市計画、市民活動サポートなど、複数の地域づくり施策への反映が必須な時期にきている。 ○歴まちの成果を、有識者(歴史・建築・考古)と行政(市・府・国)と住民が協議する場が、今後も年に一度でも継続できれば、事業を生かすことができる。	
(今後の対応方針)	
○洛西口西地区や森本東部地区のまちづくりが進んでいるが、鶏冠井地区、上植野東部地区でもテーマ型のまちづくり計画が進んでいる。今後、具体的なまちづくりの内容について協議していくことになるが、歴まちの成果の一つとして、これらも含めていけるよう考えたい。 ○文化財保護という面では、計画策定後、公有率が増加したことや、保存活用計画を策定することで道筋をつけることができた点は評価いただけると思う。今後は、文化財単独ではなく、歴まち計画を踏まえ、今の暮らしとともにある形での活用を図っていきたい。	